

ホームページのご紹介

羽田空港国内線旅客ターミナル
BIG BIRD



<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>

羽田空港ターミナル ポータルサイト



<http://www.haneda-airport.jp/>

羽田空港国際線旅客ターミナル



<http://www.haneda-airport.jp/inter/>

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月に開催いたします。
- 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日
- 公告掲載新聞 東京都において発行する日本経済新聞

- 株主名簿管理人 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱所 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL: 0120-288-324 (フリーダイヤル)

株主・投資家の皆さまへ

株主通信

第67期 第2四半期

2010年4月1日～2010年9月30日

2010年10月、 羽田が生まれ変わりました!!

- 1 News 10/13 OPEN!
第2旅客ターミナルビル増築
- 2 News 8/4 OPEN!
P4駐車場立体化
- 3 News 10/21 OPEN!
新国際線旅客ターミナルビル誕生



羽田空港は今後、さらなる進化・発展を遂げてまいります。

第2旅客ターミナルビル増築部・P4立体駐車場（本館）供用開始、
新国際線旅客ターミナルビル開業により、
羽田空港は利便性・快適性が格段に向上しました。

代表取締役社長

鷹城 勲



株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社第67期の第2四半期累計期間（2010年4月1日から2010年9月30日まで）のご報告をするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益が改善し、個人消費も持ち直すなど景気は引き続き緩やかに回復しつつあるものの、失業率が高水準にあるなど、このところ環境の厳しさは増しております。また、先行きにつきましては、景気が自律的な回復へ向かうことが期待されるものの、急速な円高や世界経済の減速等により、景気が下押しされるリスクが存在しております。

航空業界におきましては、景気の緩やかな回復に加え、昨年度の新型インフルエンザ等の影響による落ち込みからの反動により、国内線・国際線航空旅客数とも対前年同期比で増加となりました。特に、羽田空港における国際線航空旅客数は、

2009年10月からの羽田-北京間国際旅客チャーター便就航、上海万博開催や中国における訪日個人観光ビザ発給条件の緩和等の要因もあり、大幅な増加となりました。

このような状況の下、当社グループは、引き続き旅客ターミナルビルにおける安全対策強化に全力を傾注するとともに、顧客第一主義の徹底を図り、全社を挙げて一層のサービス向上に努めてまいりました。また、旅客ターミナルビル運営の効率化に取り組み、業務の活性化と経営の合理化を図り、社業発展と経営基盤の強化に努めてまいりました。

当社グループは、中期経営計画（計画期間：2010年度から2012年度）に基づき企業価値の向上に取り組んでおり、国内線第2旅客ターミナルビルの増築について2010年8月に竣工引渡しを受け、同年10月13日に供用開始するとともに、P4立体駐車場（本館）について10月予定の供用を8月に早めるなど、お客さまの利便性向上に努めました。また、新国際線旅客ターミナルビル関連の事業を一元的に処理する事業本部

を8月1日に新設するなど国際線関係業務への対応を積極的に進め、同ターミナルビルは10月21日に供用開始となりました。

第3四半期以降の業績につきましては、新国際線旅客ターミナルビル関連事業等により売上面では増収が見込まれますが、利益面では、羽田空港における家賃収入等の減少や、国有財産一時使用料の増加等による減益が見込まれ、さらに資産除去債務に関する会計基準の適用に伴う影響も加わり、当初計画を下回る見込みとなりました。

こうした厳しい状況が予想されることから、通期業績予想の修正を行い、これに伴い、通期の配当金を1株当たり13円から7円（中間配当金3.5円）に修正させていただきたく、株主の皆さまにおかれましては、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

その一方で、羽田空港については、今後さらに発着容量の増加とこれに伴う国際線機能の充実が見込まれており、中長期的視点に立てば、当社グループは、追い風の環境にあると申せます。

当社グループは、こうした状況を見据え、本年10月に供用を開始した新国際線旅客ターミナルビルおよび国内線第2旅客ターミナルビル増築部等における事業展開を着実に推進してまいります。

また、お客さまへのさらなる利便性向上を図るべく、国内線第1旅客ターミナルビル・リニューアル計画を推進するとともに、引き続き空室対策、羽田空港限定商品の開発、卸売業務の強化、外国人旅客の囲い込み等の増収策や徹底したコスト削減を着実に実行し、経営基盤の強化に努めることとしており、これにより、2012年度には業績の回復を見込んでおります。

株主の皆さまにおかれましては、生まれ変わった羽田空港に実際に足を運んでいただき、進化・発展を遂げる羽田空港を是非とも体感していただきたく存じます。今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年12月



特集 2010年10月、羽田が生まれ変わりました。

羽田空港 再拡張事業

当社グループ経営の基幹である羽田空港では、首都圏における将来の航空需要の増大に対応するための再拡張が進められてまいりました。

当社グループは、「旅客ターミナルビル等整備・運営事業」の実施主体である「東京国際空港ターミナル株式会社」の筆頭株主として同社の事業を支援するとともに、2010年10月

の新国際線旅客ターミナルビル供用開始後は、施設維持管理等の主要業務の運営を一括して受託しております。

羽田空港 再拡張事業

- D滑走路整備事業
- 国際線地区整備等事業
- 旅客ターミナルビル等整備・運営事業
- 貨物ターミナル整備・運営事業
- エプロン等整備等事業

※国土交通省資料を基に当社作成

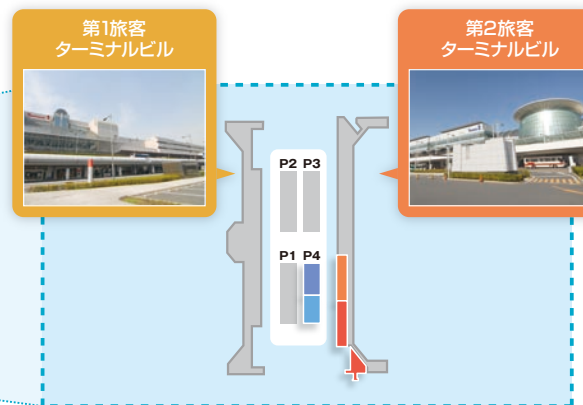


羽田再拡張D滑走路共同事業者提供

当社の取り組み

D滑走路の供用開始に伴い、再拡張後には年間発着能力が44.7万回と大幅に増加され、国際・国内ハブ機能を有する24時間国際拠点空港化が進められます。国内線も増便され首都圏の利用者のみならず、羽田空港との路線を持つ各地域の利用者の利便性も向上します。

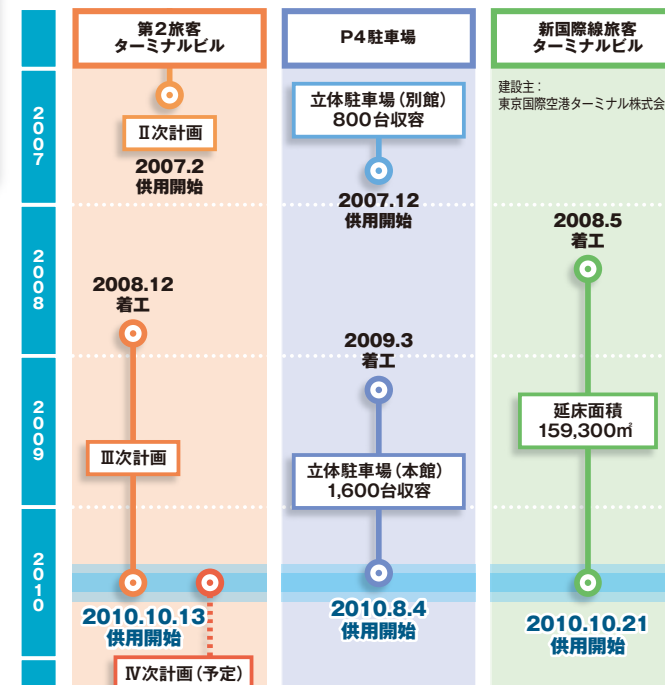
当社はこうした環境変化をビジネスチャンスと捉え、さまざまな取り組みを推進してまいりましたが、2010年からは第1旅客ターミナルビルのリニューアルにも鋭意取り組んでおります。



再拡張により発着容量が大幅に増加		
再拡張前 (2007.9.1時点)	再拡張供用開始時 (2010.10時点)	再拡張後 (最終形)
30.3万回/年 31便/時間	37.1万回/年 昼間は 33.1万回/年 33便/時間	44.7万回/年 昼間は 40.7万回/年 40便/時間

※発着回数の増加は、空港運用の慣熟により安全を確保しつつ段階的に実施
【国土交通省資料】より

当社の取り組みとその進捗



1 News 第2旅客ターミナルビル増築

広さが2倍に、利便性・快適性はさらに向上!

第2旅客ターミナルビル南側の増築工事が完了し、2010年10月13日にオープンしました。

これにより、第2旅客ターミナルビルの出発・到着ロビーが増築前の約2倍の広さになったほか、新しい飲食・物販店舗等もオープンし、ご利用になるお客さまの利便性・快適性

が格段に向上いたしました。

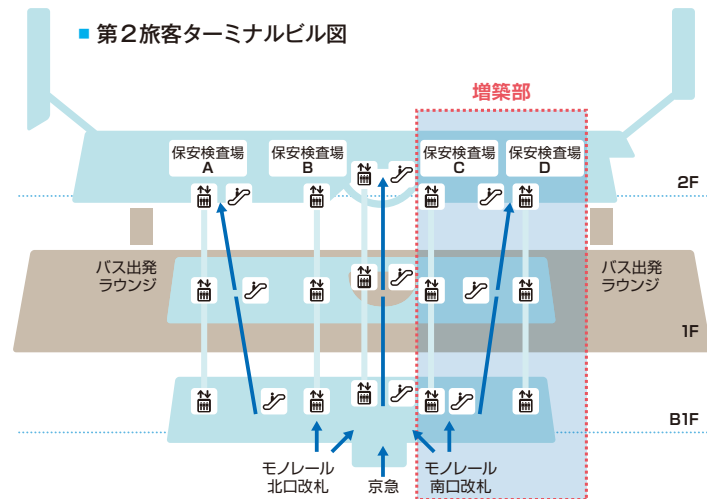
また、イタリアの有名家具ブランド「カッシーナ」をはじめ、一脚ごとにタイプの違うソファやチェアなど260点以上の家具を設置し、搭乗前のお客さまが自分に合った椅子で、寛いでいただけるよう配慮しています。

1

南側ゲートからの搭乗が便利になりました

2階出発ロビー南側に2カ所の出発保安検査場(C・D)を新たに設けました。これにより、搭乗されるお客さまの保安検査の待ち時間や、南側ゲートを利用されるお客さまの搭乗口までの移動距離が短縮され、利便性が大幅に向上しました。

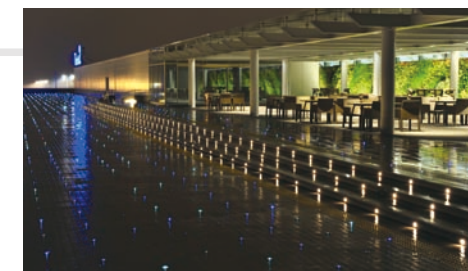
京浜急行電鉄や東京モノレール、どちらの駅からもスムーズにご搭乗できます。



2

新しい飲食・物販店舗、サービス施設がオープンしました

「UPPER DECK TOKYO」(3階)をはじめ、飲食店舗17店、物販・サービス店舗19店が新たにオープンしました。屋上展望デッキは、飛行機の離着陸がよく見えるようにデッキフェンスを全面ワイヤー化しました。デッキの一部に屋根を配置していますので、雨天でも快適に利用できます。夜は床のLEDが点灯して、夜の空港を幻想的に演出します。



展望デッキ(星屑のステージ)

3

環境に配慮したエコエアポートを実現しました

2階出発ロビー南側外壁をガラス面とすることで、屋外の植栽を楽しむことができる、明るく開放的なロビーとなりました。春は桜や新緑、秋から冬は色鮮やかな紅葉など、四季折々の日本の自然でお客さまをもてなします。また、太陽光発電、自然換気窓を採用し、空調エネルギーの低減を図るなどエコエアポート化を実現しました。



出発ロビー南側ガラス面屋外の植栽



2階出発ロビー



3階「UPPER DECK TOKYO」



P4 駐車場立体化

空港利用者、ペット、環境にやさしい駐車場が実現!

2010年8月4日、第2旅客ターミナルビル南側の増築部の前面にP4立体駐車場(本館)がオープンしました。

第2旅客ターミナルビル3階と連絡橋で結ばれ、利便性が向上しました。また、P4駐車場では約1,200台から約2,400台に収容可能台数が増え、ますます便利になりました。



P4立体駐車場外観

1 ▶ 駐車場事前予約サービスの導入、個室車室の設置

事前に駐車スペースを予約できるサービスを導入するとともに、車をより安心に守りたい旅行者のためにシャッター付の個室車室を設置しました。また、旅行中にペットを預かるペットホテルや、ドッグランも駐車場内に完備しました。



個室車室

2 ▶ 環境にもやさしい駐車場が実現しました

P4立体駐車場(本館)屋上に太陽光発電パネルを設置し、天気の良い日には日中時間帯の同駐車場の使用電力をすべてまかなうことが可能となりました。また、羽田空港で初めて電気自動車の急速充電スタンドを設置するとともに、人感センサー付照明など、環境負荷を最小限に抑えた設備を導入することで、環境にもやさしい駐車場となっています。

3 ▶ 駐車料金を改定し、さらに利用しやすくなりました

駐車料金を新国際線駐車場と同料金に値下げし、羽田空港の国内線・国際線を利用されるお客さまへの公平性の確保と一層のサービス向上を図りました。

■ P1・P4駐車場利用料金表(抜粋) (例:普通自動車)

	新料金	旧料金
入場から30分以内出場	無料	200円
入場から1時間	300円	400円
24時間(1日)	1,500円	3,000円
48時間(2日)	3,000円	5,200円
72時間(3日)	4,500円	7,200円
96時間(4日)	5,500円	9,200円
120時間(5日)	6,500円	11,200円

第1旅客ターミナルビル・リニューアル

第1旅客ターミナルビルでもサービスレベルの向上を図ります!

2010年10月13日、第2旅客ターミナルビル南側増築部の供用開始に伴い、第1旅客ターミナルビルにおいても同等のサービスレベルを実現するため、旅客エリアの環境改善を図るとともに、店舗のリニューアル等による商業施設の活性化を進めております。総投資額は70億円で完成は2011年度を予定しております。



出発ロビーイメージ



コンコースイメージ

店舗の新規オープン・リニューアルにより商業施設が活性化されます

2010年8月10日、当社は第1旅客ターミナルビル2階の出発ゲートラウンジ(北ウイング)にサマンサタバサ初のファッションとスイーツの複合店「Samantha Thavasa SWEETS&TRAVEL 羽田空港店」をオープンしました。同店は人気のレディスブランド「サマンサタバサ」をはじめ、トラベル&ゴルフラインの「サマンサタバサリゾート」、小物ブランドの「サマンサタバササブチチョイス」、メンズブランドの「サマンサキングズ」の商品を展開し、羽田空港店だけの限定商品も取り揃えております。今回初となる「スイーツ&カフェ」形態の店内では、サマンサタバサのオリジナルスイーツもお楽しみいただけます。

また、商業施設のリニューアルの一環として、1階到着フロア中央部にファッションブランド「ユニクロ」を展開し、2010年12月下旬に営業を開始いたします。



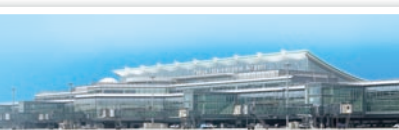
サマンサタバサ



ユニクロ



新国際線旅客ターミナルビル誕生



新国際線旅客ターミナルビル外観

空港が一つのまちに、エンターテインメントを実現!

当社が中核となり航空会社等と出資設立した「東京国際空港ターミナル株式会社」により、地上5階、延床面積約159,300㎡の新国際線旅客ターミナルビルが完成し、2010年10月21日より供用を開始しました。

当社グループは、新国際線旅客ターミナルビルの施設維持管理、商業店舗運営・企画、旅客サービス等の基幹業務の運営を一括受託し、併せて物販・飲食店、旅行業等の事業展開も行っています。

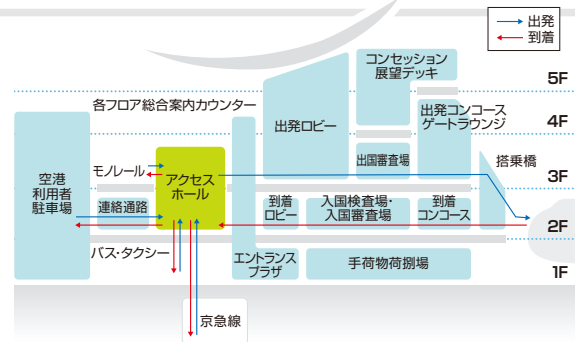
1 館内移動のしやすいターミナル設計を実現しました

■ 新国際線旅客ターミナルビル断面図

新国際線旅客ターミナルビルは、3階を出発階、2階を到着階とし、直進性が高くフラットで階層移動が少なく目的の場所に容易に到着できる移動のしやすさを実現しました。

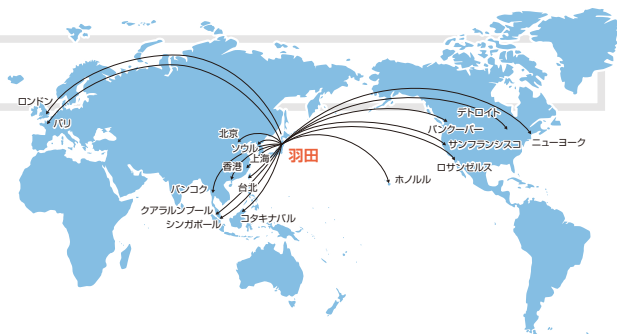
1階は道路交通アクセスを受け入れる空間に、4・5階は主に商業・サービス施設の空間になります。

また、公共交通手段からのアクセスの利便性も高く、東京モノレールの改札口は3階の出発ロビーに直結し、わずか1分で航空会社共通のチェックインカウンターに到着できます。京浜急行電鉄の改札口からもシンプルな動線で、大型のエレベーターや直進エスカレーターで出発ロビーに到着できます。



2 世界がますます近くなりました

2010年10月31日より国際線定期便の運航がスタートしました。2011年2月末までに世界17の都市に就航予定で、羽田空港から海外へのネットワークが大幅に拡大します。アジアや欧米へ、24時間眠らない世界の空への玄関口から新しい旅がはじまります。



3 「Made In Japan」として日本が誇る店舗が集まりました

新国際線旅客ターミナルビル内には、総面積約10,000㎡、合計105のショップやレストランなどの商業施設があります。国内外からのお客さまをお迎えするこれら商業施設のコンセプトは、「Made In Japan ~ 羽田Only One」。

「江戸小路」「TOKYO POP TOWN」からなる「E・DO MARKET PLACE」をはじめ、「Made In Japan」をエッセンスとした店舗を集結した商業ゾーンを創出しました。

江戸小路

ダイナミックに広がる筋雲をイメージした大屋根の下に、江戸の街並みを本格的に再現しました。散歩していただくだけで日本の伝統や文化を体感できます。選りすぐりの名店が軒を連ね、空港を訪れるお客さまにお買い物やお食事などの「おもてなし」をご提供します。



江戸小路

TOKYO POP TOWN

世界に誇る現代日本の代表的文化であるアニメやキャラクターのショップ、体感型の施設が立ち並びます。また、最新型のプラネタリウムを導入した「プラネタリウム&カフェ」や人気復活の「スロットカーレーシングコース」など、お子さまから大人まで、国籍を問わずお楽しみいただけます。



プラネタリウム

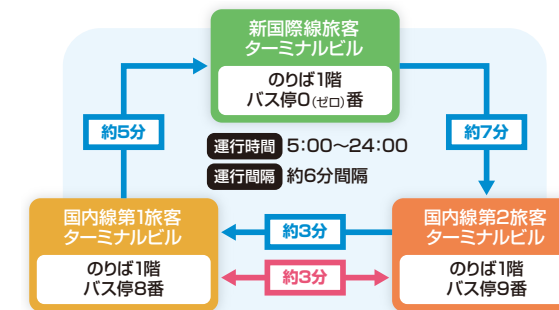
4 ターミナル間の移動がスムーズにできます

新国際線旅客ターミナルビルの供用開始に伴い、第1旅客ターミナルビルや第2旅客ターミナルビルとの移動が便利になりました。

無料連絡バスは約6分間隔で第2旅客ターミナルビルから第1旅客ターミナルビルを経て新国際線ターミナルビルまでを循環運行しています。

また、国内線・新国際線ターミナルビルの案内カウンターでは、京浜急行電鉄や東京モノレールの国内線駅と新国際線駅間を利用できる「乗継乗車票」を国際・国内の乗継旅客に無料で配布しており、ターミナル間の移動がスムーズに行えます。

■ 無料連絡バス順路



トピックス

太陽光発電システム
稼働

地球温暖化防止対策の重要性が世界的に高まる中、極めて公共性の高い羽田空港旅客ターミナルビルについても、自然エネルギーを活用した温暖化防止対策が社会的使命として求められております。

当社では、温室効果ガス削減策の一環として、自然エネルギーの中で注目度の高い太陽光発電システムの設置について、2008年より取り組みを検討し、2009年11月より設置工事を開始しました。

第1旅客ターミナルビルの屋上4カ所と第2旅客ターミナルビルの屋上2カ所の発電システムの設置工事が2010年1月15日に完了し、同年3月から供用を開始しました。また、同年9月には、P4立体駐車場(本館)屋上のシステムも供用を開始しました。

設置総面積は10,120㎡、総発電容量は1,240kWhとなり、この数値は国内の空港旅客ターミナルビルではNo.1の規模となります。このクリーンな電力の使用により、年間439トンのCO₂削減が可能となります。

設置場所	設置面積 (㎡)	発電容量 (kWh)	CO ₂ 削減量 (t-CO ₂ /年)
第1旅客ターミナルビル 屋上4カ所	5,680	790	279
第2旅客ターミナルビル 屋上2カ所	1,440	150	54
P4立体駐車場(本館) 屋上1カ所	3,000	300	106
計	10,120	1,240	439



ディスカバリーミュージアム



2010年10月13日に供用開始された第2旅客ターミナルビル増築部3階に、日本初となる空港内美術館「ディスカバリーミュージアム」を開設いたしました。

「ディスカバリーミュージアム」では、ラウンジ風にソファを配し、美術品と対面しながらゆったりと鑑賞できる至極の空間を提供いたします。年3回、企画展示を開催する予定で、初回は12月12日まで「宮本武蔵承伝 五輪書展」を開催しております。

日本の伝統・文化を東京から地方へ、日本から世界へと発信する、これまでにない新しい役割を担う施設として期待しております。



ディスカバリーミュージアム外観



展示風景

子会社の設立

当社は羽田空港におけるグランドハンドリング事業を目的とする子会社ジャパン・エアポート・グランドハンドリング株式会社を、2010年10月1日、大阪国際空港ターミナル株式会社との合併により設立しました。

関西国際空港において子会社を通じグランドハンドリング事業を展開している大阪国際空港ターミナル株式会社と、羽田空港を基盤として事業展開する当社が、お互いの経営資源を共有することにより、空港における当社グループの事業内容を多角化し、今後の事業環境の変化に適切に対応しつつ、当社グループの総合力の強化につなげてまいります。

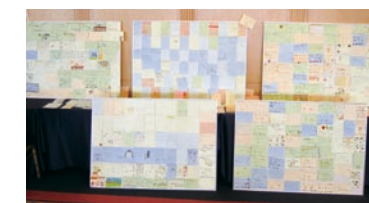
宮崎県へ大田区の小学生からの
応援メッセージカードとともに義援金を贈呈

当社グループは、家畜伝染病「口蹄疫」の被害を受けた宮崎県の経済復興を支援するため、羽田空港旅客ターミナルビルにおいて、義援金募金の受付とともに、宮崎支援チャリティイベントおよび宮崎名産品の販売などを実施しました。

募金による義援金と当社グループからの義援金、チャリティイベント・販売の収益金は、東京都大田区の小学生が書いた宮崎県への応援メッセージカード1,500枚を添えて、宮崎県に贈呈いたしました。



大田区小学生のメッセージカードを読む東国原英夫宮崎県知事



応援メッセージカード

■ ジャパン・エアポート・グランドハンドリング株式会社の概要

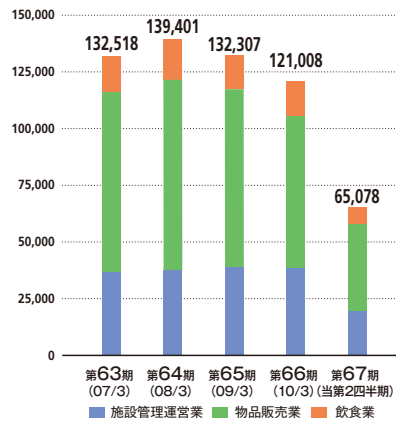
● 資本金	50百万円
● 株主	当社:30百万円(60%) 大阪国際空港ターミナル株式会社:20百万円(40%)
● 設立日	2010年10月1日
● 業務開始日	2010年10月21日
● 代表者名	代表取締役社長 櫻井 正志(当社代表取締役副社長)
● 本店所在地	東京都大田区
● 事業内容	旅客ハンドリング業務、ロードコントロール業務、 ランプハンドリング業務、航空機メンテナンス補助業務等

連結財務ハイライト

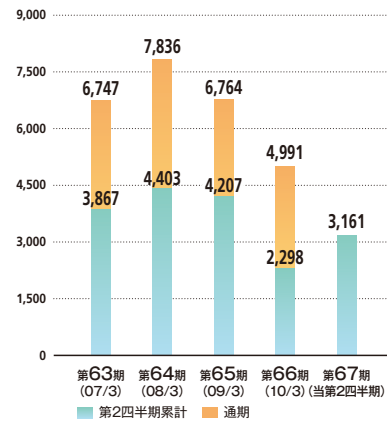
決算のポイント

景気は改善基調にある中、営業収益は前年同期比8.1%増の650億7千8百万円、営業利益、経常利益とも前年同期比で大幅に増加したものの、四半期純利益は資産除去債務に関する会計基準の適用に伴う影響等により、前年同期比1.7%減の12億7千1百万円となりました。

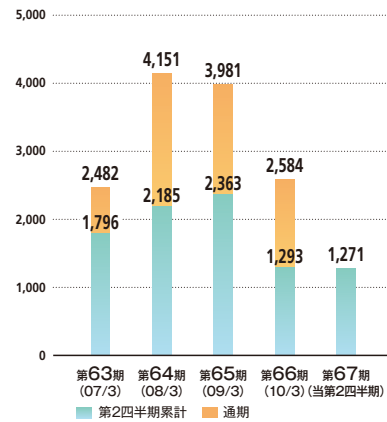
営業収益(百万円)



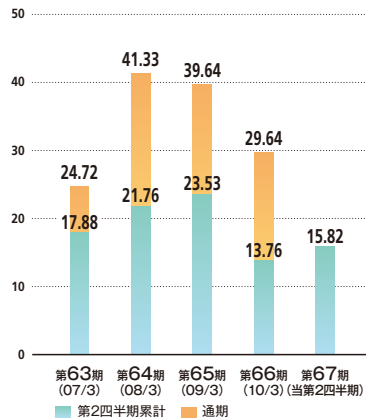
経常利益(百万円)



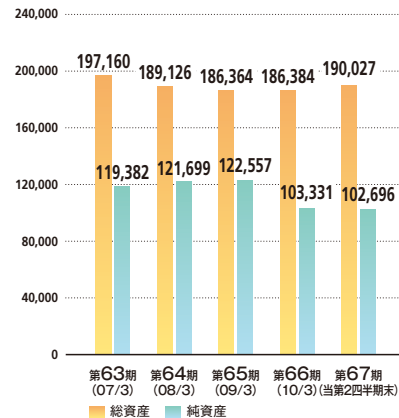
四半期(当期)純利益(百万円)



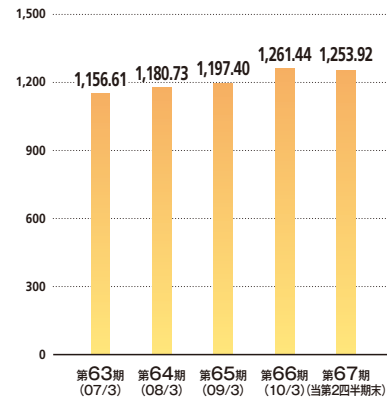
1株当たり四半期(当期)純利益(円)



総資産/純資産(百万円)



1株当たり純資産(円)



連結財務諸表

(単位:百万円)

四半期連結貸借対照表(要旨)	前期 2010年3月31日現在	当第2四半期 2010年9月30日現在
流動資産	28,602	30,868
固定資産	157,781	159,158
有形固定資産	133,927	133,799
無形固定資産	1,045	1,475
投資その他の資産	22,809	23,883
① 資産合計	186,384	190,027
流動負債	26,486	31,409
固定負債	56,567	55,921
② 負債合計	83,053	87,331
株主資本	101,596	102,345
評価・換算差額等	△193	△1,546
少数株主持分	1,927	1,897
純資産合計	103,331	102,696
負債及び純資産合計	186,384	190,027

四半期連結損益計算書(要旨)	前第2四半期 自2009年4月1日 至2009年9月30日	当第2四半期 自2010年4月1日 至2010年9月30日
③ 営業収益	60,221	65,078
営業総利益	31,394	32,647
販売費及び一般管理費	29,051	29,258
④ 営業利益	2,342	3,389
営業外収益	713	587
営業外費用	758	815
経常利益	2,298	3,161
特別利益	14	—
特別損失	41	817
税金等調整前四半期純利益	2,272	2,343
法人税等	990	1,074
少数株主損益調整前四半期純利益	—	1,269
少数株主損失(△)	△11	△2
四半期純利益	1,293	1,271

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)	前第2四半期 自2009年4月1日 至2009年9月30日	当第2四半期 自2010年4月1日 至2010年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,872	6,863
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,533	△8,007
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,994	△340
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,334	△1,483
現金及び現金同等物の期首残高	15,693	16,653
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,027	15,169

詳細な財務情報は、当社ホームページ「IR情報」をご覧ください ▶ <http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/>

- ① 資産合計/前期末に比べ、売掛金が15億円増加したことや、長期貸付金が25億円増加したこと等により、当第2四半期末の資産合計は、前期末比36億円増の1,900億円となりました。
- ② 負債合計/前期末に比べ、買掛金が6億円、未払金等が17億円増加したことや資産除去債務を6億円計上したこと等により、負債合計では、前期末比42億円増の873億円となりました。
- ③ 営業収益/航空旅客数が回復傾向で推移したことに加え、羽田空港における商業施設の各種活性化策等の実施により、施設利用料収入や商品売上が増加し、営業収益は、前年同期比8.1%増の650億円となりました。
- ④ 営業利益/羽田空港国内線第2旅客ターミナルビル築築竣工引渡に伴う修繕費等の一過性費用が発生したものの、減価償却費の通減等により、営業利益は、前年同期比44.7%増の33億円となりました。

事業別概況

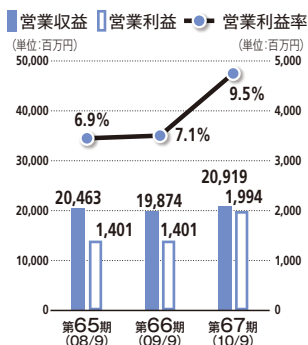
施設管理運営業

家賃収入は、国内線旅客ターミナルビルにおいて、航空会社用事務室の貸室が減少したこと等により、前年を下回りました。

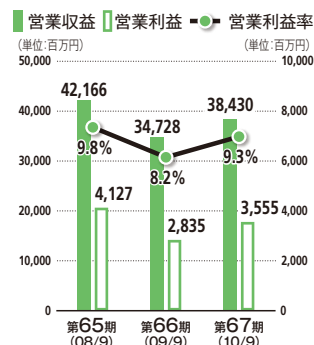
施設利用料収入は、昨年10月からの羽田-北京間国際旅客チャーター便就航に伴い、国際線航空旅客数が増加したこと等により、前年を上回りました。

その他の収入は、本年8月のP4立体駐車場(本館)の供用開始や国内線・国際線航空旅客数の増加に伴う駐車場収入の増加、また請負工事収入の増加等により、前年を上回りました。

その結果、施設管理運営業の営業収益は209億1千9百万円(前年同期比5.3%増)、営業利益は、羽田空港旅客ターミナルビルにおける減価償却費の遁減等により19億9千4百万円(前年同期比42.3%増)となりました。



物品販売業



国内線売店につきましては、国内線航空旅客数の増加に加え、厳選されたスイーツのセレクトショップ「羽田スタースイーツ」での新規ブランド商品の導入や季節感のある商品の積極的な催事販売および新規店舗展開等で販売促進の強化を図ったことにより、売上は前年を上回りました。

国際線売店につきましては、国際線航空旅客数が増加したことに加え、訪日外国人旅客への販売促進等の積極的な営業活動等により、売上は前年を上回りました。

その他の売上につきましては、国際線航空旅客数の増加および本年10月に供用開始しました新国際線旅客ターミナルビル店舗への卸売の開始等により、売上は前年を上回りました。

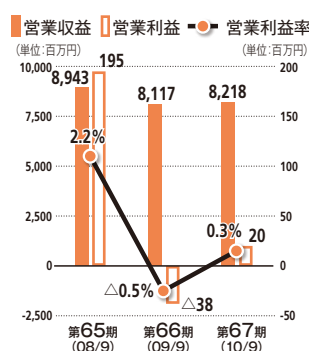
その結果、物品販売業の営業収益は384億3千万円(前年同期比10.7%増)、営業利益は35億5千5百万円(前年同期比25.4%増)となりました。

飲食業

飲食店舗につきましては、国内線・国際線航空旅客数の増加に加え、国内線旅客ターミナルビルにおける新規フランチャイズ店舗展開等の増収効果により、売上は前年を上回りました。

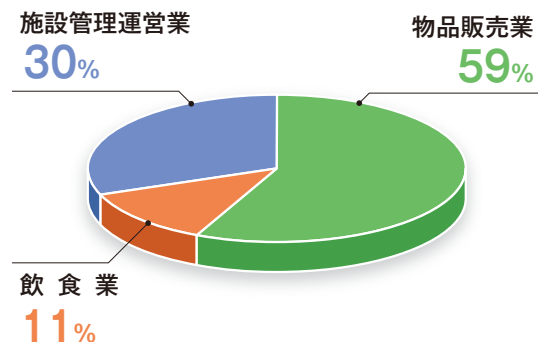
機内食につきましては、新規顧客航空会社を獲得するなど、積極的な営業活動に努めたことにより、売上は前年を上回りました。

その結果、飲食業の営業収益は82億1千8百万円(前年同期比1.2%増)、営業利益は、修繕費や業務委託費等が増加したものの、各種コスト削減に努めたことにより、2千万円(前年同期は3千8百万円の営業損失)となりました。



本文内の事業別営業収益には、セグメント間の営業収益が含まれます。

第67期第2四半期 営業収益比率



株主優待

当社では3月31日時点の株主さまに対して、毎年6月下旬の年1回、以下の株主ご優待券を配布させていただいております。羽田空港国内線旅客ターミナルビル内物販・飲食店舗・エアポータルラウンジおよび羽田空港国際線旅客ターミナルビル、成田国際空港、関西国際空港等の指定店舗にてご利用いただけます。



ご所有株式数	100株以上 1,000株未満の場合	ご優待券1枚 1,000円分
ご所有株式数	1,000株以上 10,000株未満の場合	ご優待券2枚 2,000円分
ご所有株式数	10,000株以上の場合	ご優待券3枚 3,000円分

株主ご優待券は当社指定店舗にてご利用になれます。
詳しくは、以下のURLをご覧ください。

http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/stock_information/

株式情報 (2010年9月30日現在)

株式の状況

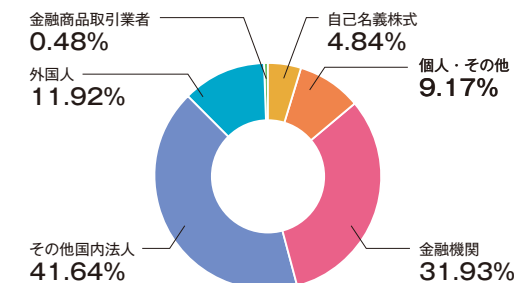
発行可能株式総数	288,000,000株
発行済株式の総数(うち自己株式 4,089,544株)	84,476,500株
株主数	5,754名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社日本航空インターナショナル	4,398	5.47
全日本空輸株式会社	4,398	5.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・ 京浜急行電鉄株式会社退職給付信託口)	3,484	4.33
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,408	4.23
三菱地所株式会社	3,111	3.87
株式会社みずほコーポレート銀行	3,000	3.73
大成建設株式会社	2,831	3.52
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,589	3.22
日本通運株式会社	2,337	2.90
東京海上日動火災保険株式会社	2,071	2.57

(注) 持株比率は自己株式(4,089,544株)を控除して計算しております。

所有者別株式数分布



会社概要 (2010年9月30日現在)

会社概要

商号 日本空港ビルディング株式会社
Japan Airport Terminal Co., Ltd.

設立 1953年7月20日

資本金 174億8,920万円(東証一部上場)

事業内容 (1) 羽田空港旅客ターミナルビルの建設、管理運営
① 航空旅客ターミナル施設、見学送迎施設等の建設、管理
② 航空運送事業者および空港構内業者に対する事務室、店舗、作業場等の賃貸

(2) 物品販売業務
① 羽田空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
② 成田国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
③ 関西国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務

(3) その他のサービス業務
① 羽田空港利用者に対する案内業務、駐車場、旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供
② 成田国際空港利用者に対する旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供

本社および営業所等

本社 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号
(東京国際空港内)

東京事務所 東京都千代田区大手町二丁目6番2号
日本ビル10階

成田営業所 千葉県成田市古込字込前164番地
(成田国際空港内)

大阪営業所 大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地
(関西国際空港内)

中部営業所 愛知県常滑市栄町一丁目124番地

役員

取締役会長	門脇 邦彦
代表取締役社長執行役員	鷹城 勲
代表取締役副社長執行役員	土井 勝二
代表取締役副社長執行役員	櫻井 正志
専務取締役執行役員	山本 兵一
専務取締役執行役員	石黒 正吉
常務取締役執行役員	安藤 隆
常務取締役執行役員	横田 信秋
常務取締役執行役員	高橋 篤郎
常務取締役執行役員	中岡 進
取締役	高木 丈太郎
取締役	小谷 昌
取締役	戸矢 博道
取締役	田口 久雄
取締役	霜田 明彦
常勤監査役	眞貝 和夫
常勤監査役	森田 一夫
監査役	赤井 文彌
監査役	樋口 公啓
監査役	大鷲 雅一
常務執行役員	田中 一禎
常務執行役員	中村 元一
執行役員	斎田 政夫
執行役員	岩松 孝昭
執行役員	岡本 保弘
執行役員	森岡 洋一
執行役員	古賀 幸
執行役員	宮内 公
執行役員	後藤 久
執行役員	松本 真澄
執行役員	河合 誠



1953年、当社は羽田空港の旅客ターミナルビルの建設・管理運営を目的として設立されました。

現在、当社グループは、施設管理運営業のほか、免税店などの物品販売業、空港内レストランや機内食製造・販売などの飲食業を展開しております。

CS理念

「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」のもと、すべてのお客さまにご満足いただけるよう、サービスの向上に取り組んでいます。

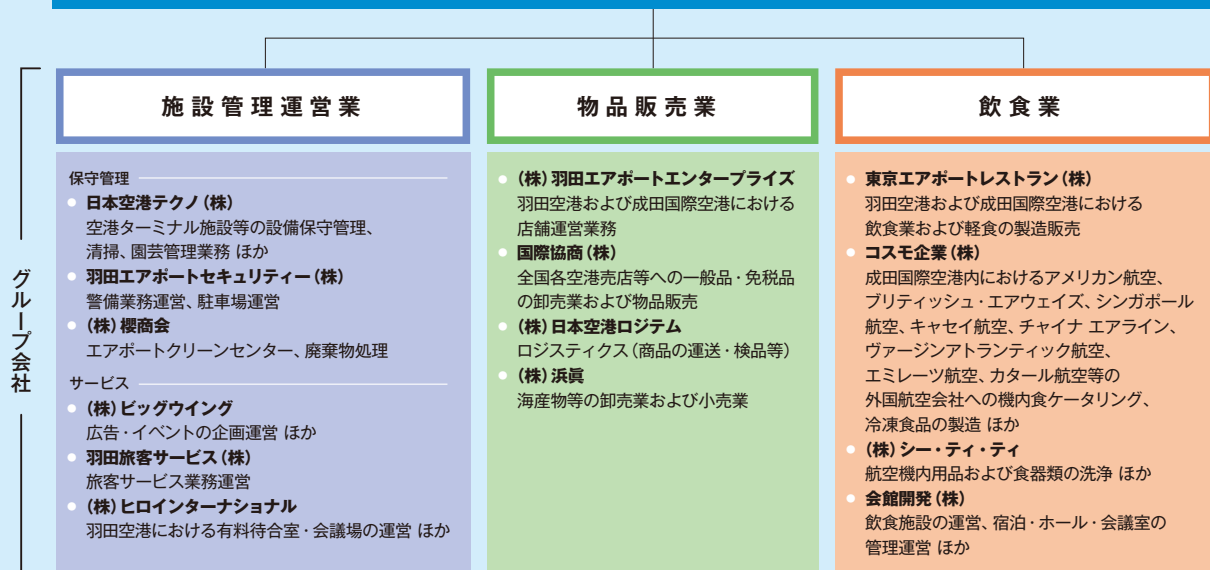
基本理念

公共性と企業性の調和

経営方針

- 旅客ターミナルビルにおける絶対安全の確立
- お客さま本位(利便性・快適性・機能性)の旅客ターミナルビル運営
- 安定的かつ効率的な旅客ターミナルビル運営
- 企業体質の強化およびグループ企業の総合力向上

日本空港ビルディング(株)



グループ会社